

兵庫県立大、データサイエンスの拠点を新長田に開設 各種分野の効率化研究

2025/5/28 18:21

社会 神戸



「数理最適化データサイエンスセンター」の開所式であいさつする高坂誠・兵庫県立大学長＝神戸市長田区腕塚町5、新長田キャンパスプラザ



兵庫県立大は28日、ビッグデータの分析や、計算技術を用い、各種分野の効率化について研究する産学連携の拠点「数理最適化データサイエンスセンター」を新長田キャンパスプラザ（神戸市長田区腕塚町5）に開所した。

センターは、同プラザ5階に同大が設ける「新長田ランチ」内に開設した。大学院情報科学研究科の学生らが、企業の効果的な人材活用や業務効率化などの分野で活用したり、マーケティングや自然科学の分野などでのデータサイエンスに取り組んだりする。

センターでは主に企業との共同研究に取り組むという。企業にとっては人材活用や新ビジネス創出などの課題解決の場とし、大学・学生側にとっては課題への対応を通して実務的な力の育成を見込む。

既に複数の企業との研究が始まっているといい、今秋以降、本格的な稼働を目指すとしている。

この日の開所式では、高坂誠学長が「これからの時代、数理最適化ができなければサステナブル（持続可能）な社会は実現できない。産学の垣根を越えて新しいものを創っていく」とあいさつ。記念に神戸市東灘区出身の落語家・桂福丸さんがデータサイエンスにちなんだ落語を披露した。

センター長を務める加藤直樹特任教授は「大学の持つ先端的な技術は、企業の課題解決に もっといかにせる。学生を育てながら、知見を社会に還元していきたい」と話している。（鈴木雅之）